

建設防災 ボランティアニュース 第 91 号

目次

- ・ 建設局初動対応訓練
- ・ 徒歩点検
- ・ 施設見学会
- ・ 著名橋ツアー
- ・ 砂防講習会
- ・ 感謝の会 他

～建設局初動対応訓練～

令和7年度建設局初動対応訓練が、2月3日(火)に実施されました。

本訓練は、建設局職員の災害発生時における対応能力向上を図ることを目的に、東京都心南部地域を震源とする大規模地震(M7.3、最大震度6弱)が2月3日午前7時に発生し、都内で広域的な被害が発生しているとの想定に基づき行われました。

今回の訓練では、インターネット環境がある状況で、電子データによる情報連絡訓練が実施されました。点検現場からは、防災無線、携帯電話、ハザードトーク、ウェアラブルカメラ等利用可能な通信手段を活用し事務所に報告する訓練が行われました。例年通り、協会にも協力依頼があり、参集事務所班ごとに参加会員を募り、総勢77名が訓練に参加しました。

事務所	参加者	事務所	参加者
一建班	6名	西建班	3名
二建班	4名	南東建班	12名
三建班	4名	南西建班	5名
四建班	8名	北南建班	7名
五建班	7名	北北建班	6名
六建班	5名	東部公園班	7名
		西部公園班	3名
合 計	77名		

初動対応に関する協定等の変更後に行われた今回の訓練では、参加協会員から実際の発災時

における活動について様々な意見が寄せられています。ボランティア協会としてより現実的、効果的な支援について、今後検討して参ります。

担当理事 川合康文

〔各班報告〕

道路・河川の現場を点検 三建班

三建班は、望月、島津、高瀬、村井の4名で参加しました。全員が応急対策班の現場点検担当として、道路・河川班にそれぞれ分かれて活動しました。本部で現場点検箇所の指示を受けた後、各班は自転車、徒歩で現地に向かいました。現場到着後、「ハザードトーク M1」等でマニュアルを見ながらの操作に苦慮しましたが、本部へ状況報告を行いました。その後、帰所して局長・所長から、日頃の訓練が大切といった講評を聞いた後、訓練終了となりました。



昨年度に比べると参集時間、機器の操作等、ボランティアへの負担は軽減されていたように思いました。訓練終了後は中野駅付近で、参加者全員で昼食会を行い解散となりました。

三建班サブリーダー 村井良輔

「MCA無線が繋がらない！ どうやって連絡するの？」

東部公園班

令和7年度の初動対応訓練には、9時から9時30分の間に参集することになっていて、飯田有貴夫、佐藤清美、鈴木進、高田賢一、細岡晃、細川卓巳、小野敏正の7名が参加しました。なお、鈴木は途中から他の現場へ移動しました。



訓練では、情報連絡班の役割を担い、木場公園と戸山公園との間で、被害状況・対応状況の確認を行いました。定時になり、各公園に呼びかけますが、MCA無線の接続状況が良くなく、チャンネルを変えたりしましたが、なかなか無線が繋がりません。このため、訓練が円滑に進行したとは言えませんでした。逆に、MCA無線はつながりにくいこと、外付けアンテナの必要性等現状を再認識でき、良い訓練になったと思いました。

ボランティアの中には、東部公園での勤務経験者があり、過去にも、通信状況の悪いことがあったそうです。



庶務課統括課長代理によると、「ボランティアは遠くに行かせないとの話があった」とのことから、参集方法が変わったことから、室内での訓練メニューを工夫されたようでした。このた

め、昨年度のボランティア全員が上野公園内での施設点検巡回に携わる応急対策班に比べ、2公園との情報連絡訓練であったことから、手持ち無沙汰・物足りなさも感じました。

情報連絡訓練終了後、根来本部長と共にTeams会議による局長訓示を傾聴し、初動対応訓練が終了した後、所長室へ移動し、「参集方法が変わったことでボランティアの役割が変わりOBの経験の活かし方が課題になる、訓練に参加しないと現役職員とのコミュニケーションを結ぶことが難しい、過去には地域の防災士会との連携を模索した」等の意見交換後、最後に写真撮影をして解散しました。

東部公園班リーダー 小野敏正

各班に分かれて参加 六建班

令和8年2月3日(火)に恒例の初動対応訓練が行われました。

六建においては、横井純夫、熊本敬治、後藤謙二、西村行正、岡上樹の5名が、作戦班、支援班、応急対策班に分かれて参加し、訓練終了後には、六建管理職との間で、庁舎の無停電設備等について意見交換を行いました。



今年は、東日本大震災から15年の節目の年です。訓練を通じて改めて震災への備えの重要性を再認識しました。

六建班サブリーダー 岡上樹

〔各班の参加状況〕

一建班



二建班



南東建班



北南建班



北北建班



西部公園班



(左から小山・菊池・坂下所長・小口)

～～徒歩点検～～

「道路の施設とバリアフリー点検」報告

三建における「道路の施設とバリアフリー点検」は、令和7年11月13日から令和8年2月20日までの間に行われました。徒歩点検は、新宿工区管内44.4kmを28班、中野工区管内27.4kmを22班で、バリアフリー点検は2班で行われました。ボランティアメンバーは、若手4名(望月さん、島津さん、村井さん、高瀬)が手分けをして、徒歩点検は、6班に参加、バリアフリー点検は、2班ともに参加しました。

私(高瀬)は、中野通り(新井五差路～新青梅街道)と明治通り(新宿七丁目交差点～高戸橋「四建管理境」)の徒歩点検と飯田橋歩道橋EVと周辺道路のバリアフリー点検に参加しました。



中野通りの点検は、島津さんと二人で参加しました。昔から変わらないなあと思いながら、私が指摘箇所の番号表示、島津さんが写真係として、数箇所の不具合を報告させていただきました。点検中に島津さんが中野の都道はきれいだなあと思っておりましたが、まさに植樹帯に不法投棄もなく、非常にキレイな状態が保たれていました。また、今回の点検箇所は、桜並木がきれいな箇所として有名ですが、大木化していたこともあり、所々植え替えが進んでいる状況でした。

明治通りの点検では、二人の若い女性職員と一緒にさせていただきました。二人とも、都庁時代に関わりがあった方たちです。そのため、往復で約4kmの道のりも楽しく、かつしっかりと点検をさせ

ていただきました。また、拡幅工事区間が1/3程度占めていたので、不具合箇所は横断抑止策柵の外れ程度でした。

バリアフリー点検は、所長・補修課長・補修課統括・担当者の4人と私(高瀬)で行いました。飯田橋歩道橋EVは、令和7年3月末に完成したもので、飯田橋駅前五差路の交差点上に架かる歩道橋に2か所の昇降施設を設置し、バリアフリー化を図ったものです。実際に車いすで利用する体験をさせていただきましたが、使い勝手がよく、これからは高齢者や障害者、子育て世代に対して、喜ばれる施設になったのではと思います。

三建班 高瀬照久



～～現場見学会～～

環七地下広域調節池(石神井川区間)

昨年の11月27日に建設防災ボランティア協会が主催する環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)工事の現場見学会に参加しました。

シールドマシンの再掘進を12月上旬に控えた多忙な時期にもかかわらず、第三建設事務所の山崎所長、大友工事第二課長ほか関係職員の方々から環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)工事インフォメーションセンターにて工事状況の説明を受け、その後発進立坑を下りシールドトンネル内をご案内いただきました。



特に説明を受けた中で、大変ご苦勞されたと感じたことは、シールドマシンのビット交換についてでした。工事担当者から「掘進を進めていく過程で面板が閉塞し、シールドマシンに負荷がかかったことにより掘進速度を抑制せざるを得ない状況が発生した。そのため、ビットの摺動(しゅうどう)距離(ビットの軌跡)が増加し、ビット摩耗が増進したことから、このまま



ド前面の凍土を人力で掘削してビットの交換を行うための空間を確保し作業を行ったとのことでした。

また、トンネル内は換気のため立坑から外気を



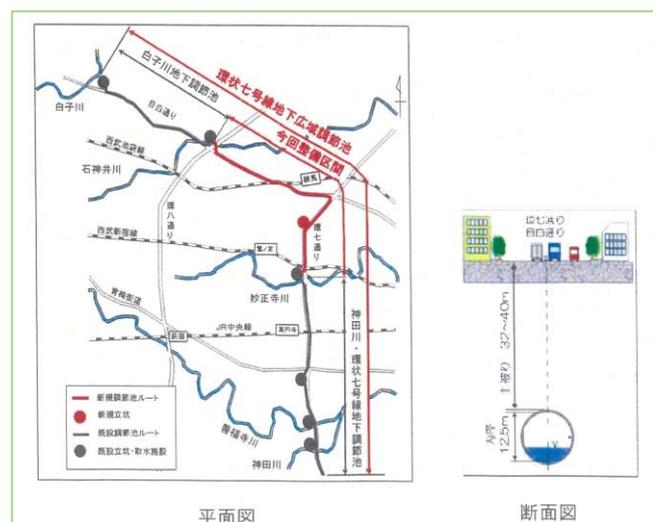
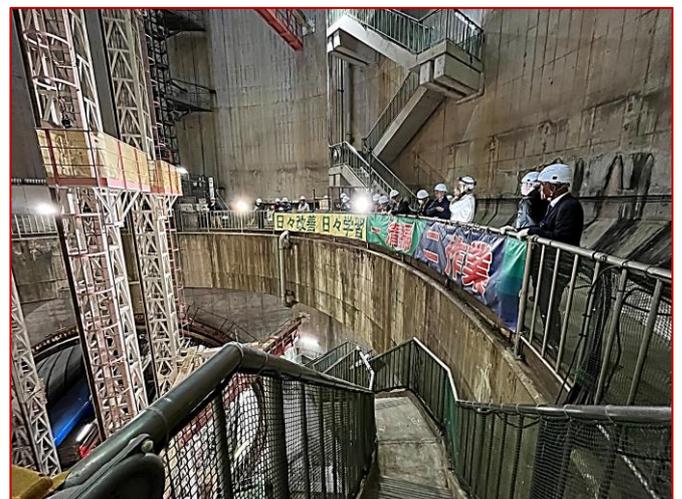
では全線を施工することが困難となりビット交換を実施することになった」と説明がありました。

シールドマシンは、妙正寺川取水施設(発進立坑)から約1.4Km 環七の地下を掘進し豊玉立坑(中間立坑)付近の土被り約40mの地点で停止していました。

ビット交換は、シールドマシンの前面地盤を凍結工法により固め、シールドマシンのカッターヘッド

取り入れています。夏場

では外気温が31℃を超えることがあり、ビット交換を行う作業空間の温度上昇による凍土崩落を防ぎながら、作業空間の環境を確保しビット交換作業(撤去約900個、設置約600個)を行ったとのことでした。過酷な環境の中で、これだけの数のビットを交換する作業がいかに大変であったかは想像



に難くありません。

また、もう一つぜひ聞いてみたいと考えていたことは、シールドマシンの掘進に伴う地上地盤への影響についてです。シールドトンネル工事では、2020年10月に調布市東つつじヶ丘の住宅地の道路で、東京外郭環状道路の工事に起因する陥没事故が発生しています。また、昨年の10月には、リニア中央新幹線の工事による道路の隆起が品川区西品川で発生しました。こうした事故の発生は、沿線住民に不安を与えるのみならず、工事

工程に大きな影響を与えることになるのは言うまでもありません。

この点、今回見学した環状七号線地下広域調節池(石神井川区間)工事では、シールドマシンの掘進に伴い日々地盤の沈下測定を行っており、±10mm の規格値内に地盤の変動が収まってい



ると説明がありました。慎重に工事が進められていることが確認でき技術力の高さを大いに感じました。

この工事が完成すると既設の白子川地下調節



池と神田川・環状七号線地下調節池が連結され総延長13.1Km、合計140万m³を超える貯留量を確保できます。また、白子川、石神井川、妙正寺川、善福寺川、神田川の計5河川にまたがること



から、貯留容量を複数の流域間で相互に融通することができ、時間最大100mmの局地的かつ短時間の

集中豪雨にも高い効果を発揮することができます。

2年後の2027年度末の暫定取水開始に向け、今後も安全に工事が進むことを祈念いたします。第三建設事務所の皆様、お忙しい中、現場見学会を開催していただき誠にありがとうございました。



五建班 菅谷正志

「隅田川著名橋等ツアー」

が始まって、終わりました！

案内開始 20 周年とお客様1万人達成という記念の年となったミニツアーですが、勝鬨橋の長寿命化工事により昨年 9 月から今年度一杯の中止を余儀なくされました。短い期間ですがなるべく活動を休止したくないと考えていたところ、公社より代替ツアーの提案があり、協会としても異存はなく検討を開始しました。



前例にコロナ禍前の平成 30 年から令和 2 年にかけて、公園協会の水辺ラインを利用した「隅田川著名橋等ツアー」がありました。ところが前回乗船した「橋の資料館」近くの「聖路加ガーデン前発着場」には、現在停船しないことが判明し、新たなルートを探して決まったのが、台東区民会館で説明、講習後、近くの「浅草二天門発着場」で乗船し、「ウォーターズ竹芝発着場」で下船する約1時間半のルートでした。

その後も予想外の事態が続きました。当初9月から2月の6回開催を予定しましたが、水上バスの営業が12月から縮小となるため、11月までの3



乗船前に隅田川防潮堤の説明をする高橋さん

回、更に9月25日に予定していた第1回ツアーは水上バスが欠航となったために、結果的に当初の計画より大幅に少ない2回の開催となりました。

ツアーの応募倍率は4~6倍と前評判もよく、参加されたお客様は定員一杯の36人でした。活動会員は延べ32人で、船上ではあちこちに人の輪ができ、会員の長い経験に基づいた説明や会話で盛り上がり、非常に楽しく和やかなツアーになっていたと感じました。



当初の計画に比べ大幅な規模縮小となってしまいましたが、長寿命化工事は今後も予定されており、今回の経験は今後代替ツアーを計画する際にもおおいに役立つと思われます。

今回の活動を準備し、実行していただいた道

路整備保全公社の皆様と、いつもと違う案内にご参加いただいた会員には心より御礼申し上げます



す。またミニツアーも来る4月9日に再開されます。たまたま第1班から始まりますので、案内者の皆様にはご準備のほどよろしくお願い申し上げます。

ミニツアー担当理事 林幹夫



~~砂防講習会開催~~

令和8年2月16日に開催された砂防講習会



について報告します。今年度の砂防講習会については、河川部との協議の結果、一昨年度と同様に河川部が主催する「東京都総合土砂災害対策連絡会」での講演の聴講により、土砂災

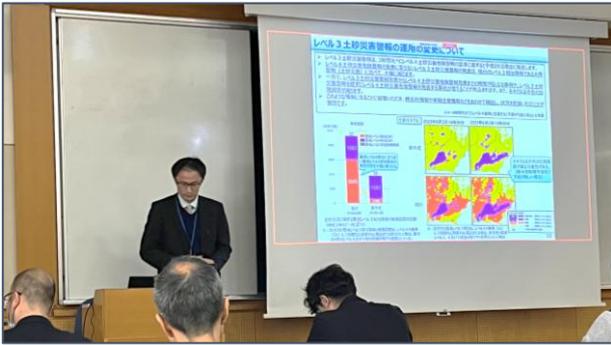
害関連の最新情報を習得することといたしました。当日は、開催場所である国立オリンピック記念青少年センターに、当会からは相場会長を始め7名が参加しました。

連絡会は、河川部の岩田土砂災害対策担当課長のご挨拶を皮切りにスタートし、気象庁東京管区气象台気象防災部の和田雅幸広域避難支援気象官より「新しい防災気象情報について」と

題するご講演をいただきました。

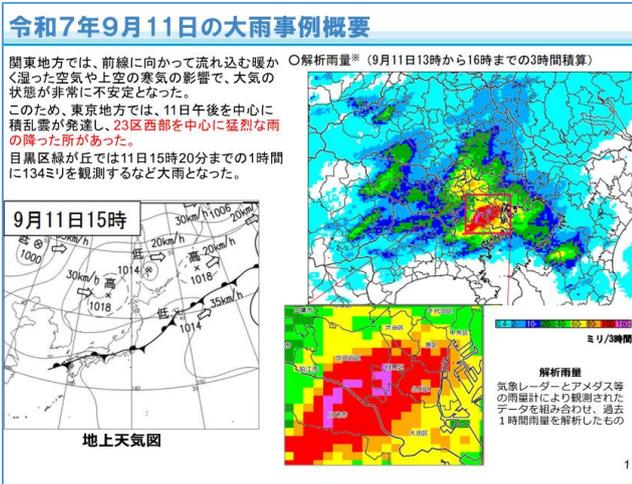
近年の気象傾向から、令和6年6月に取りまとめられた「防災気象情報に関する検討会」の提言を踏まえ、令和8年5月から「新たな気象情報」が運用予定とのことです。

これまで河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮に関する情報は、警戒レベルとの対応に複雑さがありましたが、今回の見直しにより、避難情報の5段



階の警戒レベルに対応し、避難の判断がしやすくなるとの内容でした。

続いて「JETT(気象庁防災対応支援チーム)について」との題目で、気象庁東京管区气象台気象防災部の瀬下政宏地域防災対策支援調整官からのご講演でした。



気象庁は、区市町村等の防災対応を支援するために、大規模災害が発生または発生が予想される場合に、都道府県の災害対策本部等へ各地に气象台から JETT(JMA Emergency Task Team:気象庁防災対応支援チーム)として気象庁職員を派遣しているとのことです。派遣された職員は、現場のニーズや各機関に活動状況を踏まえ、気象等のきめ細かなフォローを行うことにより、

地方公共団体や各関係機関の防災対応を支援するとの内容でした。



近年は統計的にも30ミリ以上の年間発生回数が増加しており、短時間での大雨は確実に増加しているとのことで、土砂災害のリスクも増加しています。

今後も河川部との連携を密にし、砂防に関する情報の収集や提供に努めて参ります。

砂防講習会担当理事 高橋宏彰

～建設局長による「感謝の会」～

…昨年同様1月初旬に開催されました…

花井建設局長からお声がけいただいた「感謝の会」が、昨年につき、新年早々の1月9日(金)、都庁の第一庁舎 32階職員食堂において開催されました。

局幹部・管理職の皆様等をはじめ、事務局の皆様、ボランティア協会、総勢95名が参加し、いつもの場所で和やかに懇親の集いが始まりました。



当日は、中尾総務課長による司会のもと、はじめに花井局長の冒頭のご挨拶がありました。内容は、協会員の昨年の各種防災訓練や道路施設点検、「河川愛護月間」行事や、「勝どき橋ミニツアー」、「東京 橋と土木展」等への協力に対する感謝の他、昨年8月の「東京都総合防災訓練」への参加、特に道路啓開作業での機敏な対応への感謝と、今年2月実施予定の建設局初動対応訓練

への協力依頼もいただきました。

また、昨年も各種の自然の脅威、大量降雨に伴う河川の氾濫発生や、八丈島に10月に2回近接した台風の甚大な被害への局の速やかな対応状況についての説明がありました。さらに、全国で頻発している地震の状況も含め、東京においても万が一の場合に備え、レジリエンスを高めていくため、無電柱化や調節池の整備をはじめ首都防衛につながるインフラの整備と管理に職員一丸となって取り組んでいく決意、そして協会員の経験や知見が貴重な財産であること、今後も一層の連携、協力などの依頼についてお話がありました。

次に、相場会長から、局への感謝の念をお伝えするとともに、今後も当協会が局と密接な連携を取って東京の防災活動に邁進する旨の決意が語られました。



続いて、荒井次長から新しい一年の幸多きことを祈念した乾杯の御発声をいただいて、歓談に入りました。多くの会員が現役職員との旧交を温めるとともに、さらに皆さん

がそれぞれ新たな親交を深める場として、会場は大いに盛り上がりました。

あちらこちらで歓談の輪が広がり、笑い声が響く2時間があっという間に過ぎてしまいました。

最後に出張先から駆けつけていただいた久野道路監から、今後も発展を目指していくご挨拶があり、盛大な3本締めでお開きとなりました。

この会は、協会員の皆さんにとって建設局全体及び現場事務所の現況などを直接お聞かせいただく絶好の機会であるとともに、局と一体となって防災活動を行うモチベーションの場になっていると改めて感じました。結びに、本会の開催にご尽力いただいた建設局の皆様と、参加された協会員の皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この一年も幸多きものとなりますよう祈念いたします。

二建班 松浦いづみ

*** 懇親風景 ***



荒井次長, 乾杯のご発声





久野道路監



久野道路監;締めのご挨拶

哀悼 谷村秀樹さん 西建班の道路点検と意見交換会に参加

長年にわたり西建班で活躍された谷村秀樹さんが2月9日に急逝されました。

昨年12月18日に実施した西建の道路徒歩点検は元気に参加されていたので、ご逝去の報に大変ショックを受け、いまだに信じられない思いです。気持ちの整理がつかず大変悩みましたが、最後となってしまった谷村さんの活動を記録に残すことが、青梅に生まれ育ち西建愛に溢れた故人への供養になると考え、ご報告させていただきます。



2024.11.22



西建班の道路点検は、これまで各メンバーの都合に合わせて個別の日を実施していましたが、今回は北澤さんが加入されたこともあり、谷村さんの発意で参加可能な方が一同に会し、点検後は幹部職員との意見交換会と懇親会も行いました。

当日は谷村さん、東野さん、北澤さんと私の4人が参加し、秋留台公園近くで二班に分かれて道路施設点検(主7五日市街道)とバリアフリー点検(一般都道176号雨間立体)を行いました。

谷村さんと私はバリアフリー点検を担当し、車いすで五日市線との立体交差部を往復しました。縦断勾配は5%程度ですが、手動の車いすでは大変きつく、写真のとおり私が乗った車いすを谷村さんに押ししてもらったりして「老老介護はきついね」などと軽口を飛ばしあいました。

今となっては介護の間もなく急逝されてしまったことが大変残念でなりません。

道路点検後は、西建庁舎に戻って管理職の皆さんと意見交換を行いました。まず各課長から最近の事業動向と課題等についてご説明をいただき、これを受けて活発な質疑や意見が飛び交う場となりました。谷村さんは多摩川南岸道路の事業中区間の進捗はもとより、その先の事業化など西建管内の事業推進に対する思いを熱く語っておられました。



意見交換会後は、谷村さんが足繫く通った某居酒屋に場を移しての懇親会です。前日にも西建出身の仲良し様方と席を設けておられたとのこと…。名物店員の〇〇ちゃんとも親しく話をされ、大変盛り上がりましたが、年明けの会合には欠席が続いたので、これが最後の酒席となってしまったものと拝察します。

ご逝去の連絡の際に奥様から「前立腺がんで闘病中でしたが、とても楽しみに西建に出向いて行った」とお伺いし、勝手ながら個人へのはなむけとして最後の姿を披露させていただきました。

谷村さん、長年にわたりお世話になりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

西建班 伊佐賢一

協会からのお知らせ

新コーナー 「私の推し」

●日本酒 note - ① 【都道府県のエース】

皆さん、自分の出身県のイチオシの日本酒ってなんでしょう？この話題になると、結構皆さんこだわりを持っていて、議論が白熱するから楽しいです。また、地元でしかなかなか飲めない酒を教えてもらったりして、いつも勉強になります。

さて、私は趣味で日本酒の都道府県別ランキングを作って楽しんでいますが、今回、その一端を紹介したいと思います。その名も、「都道府県別のエース」です。ご批判は敢えて受けます(笑)ので、何かの機会に、お声がけ下さい。ちなみに、吉原作成の「都道府県ランキング」では、各県のトップランナーのブランド名、上位20以上リストアップしておりますので、興味ある方はどうぞ。

○北海道:上川大雪 ○青森:陸奥八仙 ○秋田:新政
○山形:十四代 ○岩手:赤武 ○宮城:伯楽星○福島:
写楽 ○茨木:森嶋○栃木:鳳凰美田○群馬:聖
○埼玉:花陽浴○千葉:寒菊○東京:屋守○山梨:七賢
○神奈川:天晴○新潟:加茂錦○長野:信州亀齡○富
山:羽根屋○石川:吉田蔵○福井:黒龍○岐阜:射美
○静岡:磯自慢 ○愛知:醸し人九平次 ○三重:作
○和歌山:紀土 ○滋賀:七本槍○澤屋まつもと
○奈良:風の森 ○大阪:秋鹿○兵庫:播州一献
○広島:賀茂金秀○鳥取:日置桜○岡山:嘉美心
○島根:王祿○山口:東洋美人○香川:悦凱陣○徳島:
三芳菊○愛媛:石槌 ○高知:亀泉 ○福岡:田中六五
○佐賀:鍋島○長崎:飛鸞 ○大分:ちえびじん○宮崎:
千徳○熊本:産土 ○鹿児島:天賦 ○沖縄:美ら酒
以上です。「各県の蔵の総数が全然違うのに、エース日本酒の美味しさレベルが違いすぎ」という声聞こえてきそうですが、これはこれで結構面白いリストかなと思ってます。

是非、日本酒選びの参考にしてください。

二建班(国際唎酒師) 吉原信貴

① イベント等の開催予定

・5月27日(水)

ボランティア協会・総会

(道路整備保全公社17F A・B 会議室)

懇親会 ※ 詳細は別途お知らせします。

② 各班の活動報告をお待ちします。ぜひ下記編集担当理事又は西村まで原稿をお送りください。

西村アドレス(iwana-246ra@outlook.com)

③ 協会のH.P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板 <http://tokyo-adv2.info/>)には、最新の情報、バックナンバー、建設局報などが掲載されていますので、積極的にご活用ください。なお、建設局報の閲覧には、パスワード「kyokuhou」の入力が必要です。

④ **新コーナー 私の推し** ではジャンルを問わず皆さんからの自由な投稿をお待ちしています。

編集後記

3月5日は啓蟄、冬ごもりしていた虫が地中から出てくる日。そして3月20日の春分を迎え東京では桜の開花が始まった。寒波等により例年になく寒さを感じた冬でしたが4月4日は清明、全てのものが生き生きとして清らかに見える季節を迎えます。

とはいえ今夏も猛暑予想。気象庁では、最高気温 40℃以上の日の名称を検討しており、3月29日までのアンケートで提示されている候補として、炎暑日、劇暑日、激暑日、酷暑日、大暑日、烈暑日、超猛暑日などがあります。

なんとも聞いただけで暑く感じてしまうのは嫌ですね。

発行人 相場 淳司

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

新宿第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 岡村浩志、佐野正生、地引尚治、西村行正

林幹生

